

とよ・友ち

美肌通信

8月号 Vol. 97



しゅんた



August

今日号のとびたち美肌通信の表紙は、
8月らしさが感じられる 海、かき氷、スイカ、
パイナップル！そして 夏といえば 花火でもおね！
夏休みの思い出がたくさんできそう ☺
とっても楽しそうな表紙です!!

☑金盃を見る事や、犬が好きで、
おじいちゃん、おばあちゃんの家にあそびに行くと、
わんちゃんと一緒にお散歩に行くそう♪

逆上がりが得意で、連続でできるように
練習中との事。頑張れー!!!

元気で笑顔が素敵な男の子が
かいて
くださいました!

ありがとうございます。

院長 はじめ スタッフ一同

びより感謝いたします!



「万事入精」とは、「ばんじに、せい」と読む。
これは、住友の家祖である 政友の言葉だと
記されている。「商い事は言うに及ばず候へ
ども万事精に入れらるべく候」と説いて
いる。現代的に言えば、万事に丹精を込
める。あらゆる事由に誠心誠意を尽くす
という意味であろう。

時代は進み、第2次大戦後 焦土と化した
この国が僅かな期間で目覚ましい復興を
遂げることが出来た理由は、日本人の(仕事
に対する)勤勉性に他ならないという話は誰
でも一度は耳にしたことはあるはず”です。
勤勉性は万事入精と同義であるという。
何事も疎かにせず 懸命に取り組む。
日本人の勤勉性、即ち 万事入精の精神が戦
後の驚異的な復興及び高度経済成長の礎
を築いてきたことを肝に銘じたいものである。

昨今、「働き方改革法案」に代表される様に、日本人の仕事に対する価値感が従来とは根本から変化している。

その事が我が国の国際競争力の低下に拍車をかけるであろう事を私達はまた気付いていない。

戦後、我が国の先達は事の前においては準備万端、事に当たっては全心全力、事の後には必ず反省しそれを検証することをしてきた。私達はこの姿勢を忘れかけている。

日本人は片手間な仕事をせず、生命を打ち込んで仕事をしなければならない。

人間の修養は仕事であり、自分がしなければならない事を逃げずにやる。天職とは後から分かるものだ。私は信じている。

どこで何の仕事をしていても、一所懸命に働いている人こそ、楽な仕事はありません。

しかし、そこで臆することなく誠心誠意、全身全霊で向き合うことで、やがて仕事に打ち込む楽しさが分かる様になる、のだ。と私は思います。

院長、拝